

S. K.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は海外に住んでいた経歴があるため幼少期のころから海外に対する憧れを抱いていました。その影響で大学では英語圏の国に留学をしたいと高校生の頃から決めていました。

② 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

春学期には国際課が主催する留学英語基礎講座に参加し、ネイティブの先生と話す機会を作りました。さらに大学が主催する TOEIC を 1 回受けるだけでなく、自分自身でも TOEIC を申し込み受験しました。カナダでは 6 か月以内だとビザは不要ですが代わりに eTA の申請をしなければいけないため早めに申請を行いました。

③ 現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

—

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私が通ったマニトバ大学は一つの街と錯覚してしまうほど敷地が広いと慣れるまで時間がかかりました。敷地が広いということもあり様々な施設が存在します。ジムはもちろん図書館も複数か所存在し勉強できる環境も万全でした。大学まではバスを利用し、家から大学までは 15 分弱と近かったです。

◆ 授業内容、課題、試験。

大学の授業では 300 から 700 までの自分のレベルに合うクラスに振り分けられます。いろんな国の生徒が集まっており、特にアジア人が多かったです。授業内容は文法やリーディングはもちろん、スピーキングに特化した授業も多くプレゼンテーションは毎月ありました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

課外活動において、週に 3 日アクティビティがあり、スポーツをしたりアイスホッケーの試合を観戦したりと盛沢山でした。さらに週に一度開催される Language Exchange という日本語を学びたい現地の学生と交流するプログラムにも参加しました。そこで多くの友達に出会えました。それだけでなく、KPOP ダンスクラブにも参加しました。驚いたことに、アジア人が全くと言っていいほど少なかったです。しかしそのおかげで交友関係を広げることができました。

⑥ 現地での住まいについて（ホームステイ、設備、食事内容、通学距離・時間など）

ホストファミリーは 60 代夫婦で、さらに二人の留学生と一緒に住んでいました。家の立地もよくバスの本数も多かったため便利でした。ホストマザーが料理上手なことから毎日の食事もおいしかったです。朝食はシリアル、昼食は前日の夕飯をタッパーに詰めたものを食べるが多かったです。夕食はホストマザーが用意してくれます

⑦ 長期休暇の過ごし方

—

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学を通して出来た友達やルームメイトと毎週のように出掛けたり、カナダで日本とは違うハロウィンやクリスマスを経験したことも印象に残っています。さらに長期休みにはニューヨークを訪れ、かの有名なタイムズスクエアで新年をカウントダウンできたことは一生忘れることのない思い出になりました。加えてカナダで成人式に参加できたことも楽しかった思い出の一つです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

冬場のカナダは本当に寒く、今まで体感したことのない温度が毎日続いたためつらかったです。防寒対策はとても苦労しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ほとんどの人がフレンドリーで、他人同士でも突然会話を始めて楽しんでいる光景が多くみられました。さらにカナダは移民の方が多いとされるため、まるで小さな世界を見ているかのように様々な国の人が住まれていることに驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンはもちろん必須の上、カナダでは多くの人がクレジット決済をおこなうため最低一枚は持っていくと便利です。冬の場合、タイツをジーンズなどの下にはいて防寒対策していたのでタイツも複数枚必要です。さらに日本食が恋しく思うときがあったので、その際は日本から持って行ったインスタントのお味噌汁やお米を食べました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学以前は英語に自信があるかと問われたらすぐに答えを出せずにいました。留学して最初のころは文法が間違ってもいいからとりあえず話すことを目標にしたところ、段々と会話をするのが楽しくなっていくと同時に、英語の会話に対して恐怖や不安という感情が消えていきました。自分の成長が自信につながっていきました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

たくさんの不安があると思います。私自身も本当に行きたいのか考えていた時もありました。毎日悩む日々を過ごしていましたが、やはり英語を習得するという小さいところからの目標を果たすための一歩として決断しました。結果としてこの留学を通じて得た様々な出会いや経験が自信につながっていきます。チャンスがある限り挑戦することが大事だと思います。

Ⅳ. 将来の目標

TOEIC の点数を上げて将来外資関係の仕事に就きたいと考えています。そのために今できることを精いっぱい行い、留学で身に着けた英語力を保つように努力していきたいです。

Ⅴ. 写真

一緒の家に住む二人の留学生たちと出かけた時の写真です。この日も氷点下 20 度ということで数分間歩いただけで髪の毛が凍りました。とても貴重な体験でした。



S. N.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は高校生の頃からカナダに留学に行きたいと思っていました。将来の就職を考えた時に海外に関わる仕事がしたかったのと、日本だけでなく世界中の人とコミュニケーションをとって自分の視野や活動範囲を広げたいと思っていました。

② 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

TOEIC などの勉強ではなく実用性が必要だと思ったので、海外の映画を見ていたのと、単語の知識量を増やしていました。アメリカに行くかも知れなかったので、アメリカ入国の申請なども準備していました。

③ 現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

空港からは現地のスタッフが車で家まで 30 分くらいで送ってくれました。オリエンテーションで学校や厳しい気候についての注意事項の説明があり、すぐに授業が始まりました。バスの定期や学生証の申請は個人ですが、その日のうちにできればやっていただいた方がいいと思います。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

Manitoba 大学は一つの村だと言われているほど大きいので場所を覚えるのが大変でした。気温は日本では体験できない寒さで、命の危機を感じる時もあるので気をつけた方が良いでしょう。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容はもちろん大事ですが、毎日英語だけを聞き続けられる環境にあり、culture の授業などで違う文化を持った人の話が聞けるのが良いところだと思います。試験は毎月あり、授業中のテストも後半になると増えてきます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP の放課後アクティビティが毎週あり、スポーツをして遊んだりウィニペグの観光地などに行ったりしました。そこで IEP の他のクラスや他の国の友達ができます。他にも現地の日本語を教わりたい人と英語を教わりたい人が集まって話すアクティビティもあって、大学以外の友達もできました。

⑥ 現地での住まいについて（ホームステイ、設備、食事内容、通学距離・時間など）

私のホストファミリーはマザー 1 人と犬 2 匹でした。途中で中国人のルームメイトもやってきました。マザーは他の大学で留学生と関わる仕事をしている方で、わからないことがあったら家でご飯の時にいつも教えてもらっていました。本当にいい環境にいたと思います。メンタル面で何回も落ち込んだ時もありましたが犬に癒してもらっていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私はクラスメイトと飛行機でイエローナイフへ行っておオーロラを見てきました。ずっと心

に残る思い出になりました。他にもクリスマスはマザーの家族の家で大きなパーティーをしたり友達の家に行ってクラスみんなでパーティーをしたりしました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

現地にいたときは旅行などが楽しかったと思っていましたが、今思えば一緒にみんなでご飯を食べたり夜にみんなでケーキを買いに行ったりした日常を思い出しますので、全部いい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

日本の家族や友達に会えないつらさが二ヶ月目くらいにやってきました。あとは自分の能力に悩んだり、バスが時間通りでないので乗り継ぎがうまく行かなかったりといったことが多くて苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本人は気を遣いすぎだと実感するほど、みんなが適当でいいなと思いました。バスで普通に電話や会話をしたり、店員さんが店の音楽に合わせて踊っていたり楽しそうだなと思いました。バスの運転手さんが、走っている人を見つけたらバス停でなくとも止めて声をかけて乗せてあげていて優しい文化だなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

ウィニペグにはユニクロがないのでヒートテックは必需品だと思います。体の末端が凍傷になるので分厚い靴下は多めに要ります。カイロは持っていったのですが気温が寒すぎて暖まらないので意味がなかったです。気温が寒すぎて携帯の充電がすぐに切れたり急になくなるのでモバイルバッテリーはあった方が良いでしょう。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

気付いたら勝手に耳が英語をひろっていたり、確実にリスニング力も話す力も上がっているのを最初はわかりにくいですがだんだん実感します。視野が広がって考え方も変わるし自分に自信がつけました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

自分が想像する以上に得るものが大きくて、これは行った人にしか絶対にわからないです。語学力も確実に上がるし、自分の中で大切なことにも気付かされます。金銭面や生活面で不安もあると思いますが、大事な経験をして恩を返せると 생각합니다。後悔することは絶対にないので素晴らしい環境で貴重な体験をしてきてください。

Ⅳ. 将来の目標

海外と関わる仕事がしたいと思っています。大学卒業までにもっと自分に自信が持てるように、今できることやしたいことは後悔ないように積極的にたくさん経験していきたい

です。

V. 写真



これは友達のスポーツクラブのパーティーに参加させてもらった時の写真です。日本では居酒屋で飲み会のところが、カナダではホームパーティーでお酒を飲むのが主流なので頻繁にホームパーティがありました。



これは帰国の前日に、韓国人の友達と別れる時にバス停で泣いて別れを惜しんでいるところです。毎日一緒にいたので心から帰りたくないと思いました。留学期間どこを切り取っても良い思い出ばかりです。

Y. N.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

大学に入ってからあまり努力をせず、将来の夢もなく、バイトに行くか遊ぶかの生活に不安を覚え、自分を変えたいと思ったため、留学することを決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

カナダはキャッシュレスが進んでいるため、クレジットカードを作りました。パスポートを持っていなかったのでパスポートも作りました。元々携帯に入っていた SIM カードは出発直前に成田空港のドコモで契約一時解除の際に取ってもらいました。勉強についてはとりあえず TOEIC 英単語帳や英文法書などを使用して学習しました。しかし、留学後の今になって考えると、もっと自分について話すための学習をしておくべきだったと思います。具体的には趣味、学校で勉強していること、アルバイト、日本の文化、政治などについてです。また、日本が好きな外国人はナルト、ドラゴンボール、進撃の巨人、ブリーチなどの日本の漫画が大好きなのでそれらを読んでおく外国人の友人に喜ばれると思います。

③ 現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

ホストシスターが空港に車で迎えに来てくれました。車に乗っている間 1 対 1 でとても緊張しましたし、ホストシスターがたくさん質問をしてくれたのにはほぼ聞き取れず、答えられず、苦しい思いをしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

キャンパスは迷子になってしまうほど広いです。紅葉がとても綺麗で、野生のリスやウサギを見ることができるなど自然の溢れるキャンパスです。冬はとても寒いので地下道を使用して移動しました。地下道に貼ってある地図はとても見にくいので苦労しましたが慣れたら便利でした。先生は学生思いで話しやすい方ばかりだったので、授業中でもその前後でも質問しやすかったのがとても良かったです。

◆ 授業内容、課題、試験。

最初の 1 ヶ月ほどは特に授業内容が簡単で不安になりました。その後クラス替えによってだんだんと難易度は増していきましたが、想像していたよりも授業は簡単で、宿題も少なかったです。試験は普段の授業をしっかりと受けて、わからないところを先生に質問したり、復習をすれば合格できます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラスメート以外の語学学校の学生ともコミュニケーションを取ることができるアクティビティが週に 3 回ほどありました。曜日によってスポーツをする日、ゲームや会話をする日、観光に行く日と分かれていました。その観光では美術館や観光地を巡ったり、お祭りに行ったりしました。それらのアクティビティには現地の大学生がついてきてくれます。

毎週木曜日に開催されるランゲージエクスチェンジはとても英語の勉強になりました。これは語学学校のアクティビティではないためネイティブの人たちがたくさんいます。ランゲージエクスチェンジは始まる時間が遅いのでその時間まで待たなければいけないということと、すでに仲良しグループが構築されているところに飛び込んでいかなければならないので正直最初に行くのが億劫になると思います。しかし本気で英語力を伸ばしたくて、カナダ人の友人が欲しいのなら行くべきです。ボランティアについてですが、語学学校の先生に質問したところ、今年からルールが変わったためできないと言われとても残念でした。

⑥ 現地での住まいについて（ホームステイ、設備、食事内容、通学距離・時間など）

私はホームステイをしました。ホストファミリーはみんな優しくて過ごしやすかったです。深夜の音楽の音や食べこぼし、家族喧嘩などが豪快で驚きました。日本との文化の違いを肌で感じる事ができてよかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12月下旬から1月上旬にかけて2週間ほどの冬休みがあったのでホストファミリーとクリスマスパーティーをしたり、ウィニペグで毎年行われている年越しの花火やイエローナイフのオーロラを友達と見に行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ランゲージエクスチェンジで出会ったカナダ人の友人の家でホームパーティをしたり、ドライブや観光に連れて行ってもらったことがいい思い出です。日本では友人と遊びに行くときは知り合い同士が集まるのが一般的ですが、カナダ人の友人と遊ぶときは大体その友人の友人も誘われているので、そのたびに友達の輪が広がり、新しい友人ができるのが面白かったです。また、2月の下旬にトロントとナイアガラの滝へ一人旅をしたことも印象的です。なるべく安く旅行をしたかったため飛行機代や宿泊費、食費など全部含めて3万円での旅でしたが、とても充実した2泊3日でした。カナダ初日はホストシスターが何を言っているかほぼ理解できずに10秒も会話が続かなかった私ですが、その旅行をした際にはナイアガラの滝にいたほかの観光客に自分から話しかけに行って写真を撮ってもらったり、バスで隣になった人に道を尋ねたり、たわいもない話ができるようになり、自分の成長を実感した良い機会でした。毎週日曜日に通っていた教会の英会話教室も様々な国から来た人たちと話すことができたので楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

バンクーバー空港で乗り換えをしてウィニペグ空港への飛行機に乗る際に、入国審査の行列が長すぎて飛行機に乗り遅れたことです。当時はチェックインの時刻に間に合わなかったことを伝えられたことに気づかないぐらい英語力がなく、受付の女性が怖い顔で怒っていることしか理解できませんでした。彼女が飛行機を次の便に無料で変更してくれたことは不幸中の幸いでした。また、カナダに到着後約1ヶ月でハロウィンパーティーに参加し

たのですが、そのパーティーの参加者が私と日本人の友人 1 人を含めて 20 人ほどしかおらず、私たち以外の参加者はネイティブだったときはとても浮いて気まずかったです。途中で帰りづらく、前払いしたお金ももったいなかったの、意を決してネイティブの人たちの輪に混ざって話したり踊ったり写真を撮ったりしました。ほぼ英語が話せない聞き取れない状態で初対面の人と話すのはとても苦痛でしたが、自分の実力の低さを痛感して、英語に対するやる気がますます上がりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

バスがほぼ毎回遅れてくることに驚きました。ウィニペグには公共交通機関がバスしかありませんし、気温が -20 度、もしくはそれ以上寒い中で 30 分以上待ったことも何度もあったのでとても不便でした。また、ウィニペグの人々は全体的におおらかでフレンドリーな人が多かったです。バス停でバスを待っているとき、初対面の人との会話が始まって世間話をするのは日常茶飯事でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）。

パソコンと USB は授業でも使うことがあるので必須です。私はもっていかなかったのですが、日本が好きな友人に配るスーパーに売っているようなお菓子があつたら良かったです。日本食はアジアンスーパーで手に入れることができますが日本で買うよりも 2～3 倍ほど高いです。お風呂セットなども日本から持っていくのが無難だと思います。カナダにはふき取り化粧水以外の化粧水やオイルクレンジングという文化がほぼないので売っていませんし、ボディソープやシャンプーなどは日本製に比べると泡立ちにくかったり香りが強すぎたりします。生理用品は慣れたら思ったよりも不便はありませんでした。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学に行く前の CASE の授業では先生が何を言っているか聞き取れないことが多かったため、先生から発言を求められた際は不安でいっぱいでした。しかし、留学後は先生が何を言っているかほぼ理解できるようになったため自信を持って発言できるようになりましたし、毎回の授業を心から楽しめるようになりました。留学中はとにかく英語力を向上させたくて積極的に自習学習に励み、クラスメートと切磋琢磨しながら自分から授業中に発言していたのでその癖がついて日本での授業でも自分から発言するようになったり、毎日自習学習をする習慣ができました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これをご覧になっている大半の方は留学に行くか迷っているのではないのでしょうか。もし迷っているなら絶対に行くべきです。留学の良さを述べたらキリがありませんが、私はカナダで本当に良い経験をたくさんすることができました。留学前と比べると信じられないくらい勉強に対して真面目になるなど、語学の面はもちろんのこと、性格や考え方も随分成長しました。留学中は自分から積極的に行動することが大切だと思います。ただ留学に行っただけでは絶対に成長できません。語学学校の活動に頼った生活では思ったよりも英

語力は伸びないと思いますし、友人もできません。失敗を恐れず勇気を出して発言したり話しかけたり新しい場所に行ってみたりすることがミソだと思います。また、常に自分の身を守ることを考えて行動することも大切です。

IV. 将来の目標

カナダに留学したおかげでカナダが大好きになったのはもちろんですが、離れて外から見たからこそ改めて日本や自分の地域の魅力に気が付きました。ですので、具体的には決まっていますが過疎化している地域を発展させることに貢献出来る活動をしたいと思っています。

V. 写真



こちらは教会の英会話教室でのクリスマスパーティーの様子です。みんなが手作りの料理を持ってきてくれたので、様々な国の料理を食べることができて楽しかったです。12月はクリスマス当日だけではなく、色々な場所、日程でクリスマスパーティーが開かれます。



こちらはホストファミリーの家のクリスマスツリーをホストマザーと飾り付けている様子です。どこの家のクリスマスツリーもこのようにとても大きくて驚きました。



こちらは動物園で毎年行われるイルミネーションの一部分です。ウィニペグでは冬になると様々な場所が光で飾り付けられるので、毎週のようにイルミネーションを見に行っていました。



こちらはナイアガラの滝へ旅行に行った際の写真です。滝のサイズも音も大きくて少し怖くなるほどでしたが、とても良い経験でした。



こちらはウィニペグにあるカフェに行った際の写真です。ウィニペグには雰囲気の良いカフェが沢山あるので、クラスメートやルームメイトとかなりの頻度でカフェ巡りをしました。

N. T.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

海外への憧れと住んでみたいという思いから留学しました。何かを学びたいというよりも語学を勉強したかったのでこのセメスター留学という制度で留学をしました。

② 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

留学前の英語学習としては、ホームステイでの日常会話のためフルハウス（アメリカで制作されたテレビドラマ）を見ていました。ドラマの中でわからない単語は調べて覚えるようにしました。また、洋画を観たりして耳を英語に慣らすようにしていました。

それから、現地で使うクレジットカードを 2 枚作りしました。発行までに期間を要したので、留学 1 か月前には手続きを開始することをお勧めします。現金もいるので日本で 5 万円ほど両替していく方がいいと思います。また、カナダに留学する際、eTA が必要になってきます。これは、ビザの代わりのようなもので、オンラインで簡単に取得することができます。

③ 現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

夜中に着いたにもかかわらずホストファミリーが家族全員で空港まで迎えに来てくれました。渡航する前に、メールでお互いの顔写真をシェアしていたのですぐに認識できました。出迎えてくれた帰りの車で日本語の歌を流してくれて、日本に関心を持ってくれていて嬉しかったです。一気に緊張が解けました。現地に到着してから学校が始まるまで 1 日オフがあったので、ホストファミリーが学校内や街の中を車で案内してくれました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

キャンパス内は交通バスが普通に通っているほど、とても広いです。Google マップで調べに行っていました。大きな図書館やスタバやサブウェイがあり文具もあるので、初めは大学内で買い物するのが安心だと思います。フリースペース、郵便局や薬局なども有りとても便利でした。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は難しくなく、ついていけるか心配する必要はないと思います。授業は昼までで終わる日が週に 2~3 回あり月末にテストがありました。テストをクリア すると、2 か月に 1 回クラスのレベルを上げることができます。テストはパソコンで実施されていました。普通に宿題して授業に参加していたら上に上がれるので大丈夫です。先生方も優しくフレンドリーで仲良くなれます。宿題もたまに出ましたが、そこまで苦勞することはなかったです。クラスメイトは中国人や日本人が主でアフリカや韓国からの学生もいました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週木曜日に、Language Exchange というクラブがあり、たいいてい日本人留学生は参加します。このクラブでは、日本人とネイティブの英語話者が、日本語 で 45 分間、英語で

45 分 間会話をすることで、お互いに母国語とは違う言語を喋る機会があり、現地の学生とも仲良くなれます。

⑥ 現地での住まいについて（ホームステイ、設備、食事内容、通学距離・時間など）

ホームステイ先の家族は、ファザー、マザー、ブラザー(11 歳)、シスター(6 歳)でした。初日から遊ぼうと子供達が誘ってきて一緒に遊んでいました。ホッケーが好きな子で留学中に何試合も家のホッケーで遊びました。休みの日にはファミリーでホッケーの試合を観に連れて行ってくれました。みんなとても温かく初日から安心して暮らすことができました。フィリピン人の家族でよく親戚や友人とホームパーティーをしました。その人達も親切でとても優しかったです。朝ご飯は基本的にセルフで、お昼ご飯は毎日お弁当を作ってくれました。夜ご飯は家族みんなで揃って食べることが多かったです。学校から家まで近く、小学校の近所だったので治安的に安心できました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇中は、友達とカナダのイエローナイフでオーロラを見に行きました。マイナス 30 度と極寒の中見たオーロラは格別でした。街は冷凍庫のような寒さで異世界を体感しました。またホテルで夜通し人狼（ゲーム）やトランプをしたことも楽しかったです。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

英語で人狼を楽しめたことと、クラスメイトと飲み会ができたことです。初めは英語での生活を楽しむのに苦労しましたが、帰るときには英語で会話して楽しむことができてとても良かったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

水がもったいないので洗濯が週一の 30 分のみだったことと、シャワーのみの 10 分間だけだったことです。また限られた時間で頭を洗うために近くの韓国のヘアサロンで髪の毛を切ってもらったらイメージと違い切り直してもらったことも後悔しています。海外で髪の毛を切るのはおすすめしません。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ホストファミリーはキリスト教のクリスチャンで毎週日曜日は必ず礼拝にいき、週 2 で聖書の勉強会へ行っていてその信仰心に驚きました。1 番驚いたことは、日本人留学生を過去に 6 人受け入れた理由の一つが、キリスト教にあまり関心がない日本人にキリスト教を広めるためとファザーから聞いたことです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

日本食は高価で売られているのでインスタントの味噌汁やご飯は持っていくといいと思います。特にさとうのご飯はお湯で日本の米が食べれるのでお勧めします。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

発音が格段に良くなりました。生の英語を聞くので真似していくうちにネイティブの英語に近づいていくからです。また初対面の人と話すことが多いのでコミュニケーション能力やリスニング力が向上したと思います。また、帰国後友人に明るくなったねと言われるようになりました。海外のテンションの高さに影響されたからだと思います。留学後の TOEIC ではあまり成果が見られなかったのですが、リスニング力も上がったと思っています。また、帰国してから現地でよく流れていた洋楽をよく聴くようになりました。以前は全く歌詞がわからなかったのですが、留学後は以前より聴き取れるようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学をすると日本の素晴らしさを実感します。今まで恵まれた環境で育ってきたのだと痛感しました。ぜひ日本を離れた場所から見てみてください。色々な発見があってとてもおもしろいです。語学も大事ですがそれ以外のことにも目を向けて留学を楽しんでください。

IV. 将来の目標

企業に就職して新商品の企画開発をやってみたいと思っています。

V. 写真



カナダのイエローナイフでオーロラを見た時の写真です。やっと3日目で見ることができました。見えているテントでオーロラが出るのを待ちながら行ったトランプも楽しかったです。